

令和4年9月10日(土)、絶好の十勝晴れのもと十勝支部では研修会を開催しました。

管内各校のPTA役員及び教員、鹿追高校の生徒あわせて39名が参加して下さいました。まず、当番校の鹿追高校で開会式を行った後、バス2台に便乗して鹿追町内の施設見学に出発しました。バスはひとりに付き2人分の座席が用意され、手指消毒も徹底されており、感染対策も万全です。

午前の施設見学は2カ所です。まずは「鹿追町環境保全センターバイオガスプラント」です。鹿追町は家畜の糞尿を活用した発電を行っているだけでなく、その廃熱を活用したチョウザメの養殖やマンゴーの栽培を行っています。鹿追町役場農業振興課環境保全センター係の井上竜一係長から説明をいただきながら各施設を見学しました。発電した電力は、現在は北電に売電しているそうですが、ゆくゆくは町内における電力の地産地消を目指しているとのことのお話を伺い、今後の進展が楽しみになりました。チョウザメの養殖施設では小さなチョウザメが元気に泳いでおり、そのかわいい姿に思わず笑みがこぼれました。

次の施設は「とかち鹿追ジオパークビジターセンター」です。とかち鹿追ジオパークは、鹿追町全域をエリアとするジオパークです。まず鹿追の大地が誕生した物語をプロジェクトマップによる立体映像を見ながら学び、その後、鹿追町役場ジオパーク推進課の高井宏行課長に説明をいただきながら学びを深めました。センター内は「火山・凍れ(しばれ)・生命」の3つのテーマに分けて展示物が並んでおり、大地の成り立ちや鹿追町に生息する動植物について効率よく理解できるよう工夫されていました。特に、河川の流れるの変遷と大地の形成過程を理解するための水と砂を活用した実演は説得力に富み、納得の一言でした。

その後、然別湖に移動して昼食です。雲一つない秋晴れのもと、湖畔に腰掛け、然別湖を眺めながらのお弁当は格別でした。食後は思い思いに湖畔を散策したり、足湯に浸かったりと、初秋の然別湖を満喫しました。



食後は町内に戻り、「神田日勝記念美術館」の見学です。NHK連続テレビ小説「なつぞら」に登場する山田天陽のモチーフになったのが画家：神田日勝です。1970年に「馬(絶筆・未完)」を残し、32歳8カ月の短い生涯を閉じた神田日勝の作品をゆったりと鑑賞することができました。また、美術館隣の町民ホール内に開設された鹿追高生だけの学習スペース「ペンギンコロニー」も見学することができ、鹿追高校の恵まれた学習環境の一端に触れることもできました。最後は鹿追高校に戻って閉会式を行い、研修会は無事終了しました。

今回の研修会における大きなトピックは、バス内でガイド役を務めてくれた4人の鹿追高生です。郷土愛あふれるガイドは、バスでの移動に彩りを添えてくれました。また、堂々としたガイドぶりから、鹿追高校での確かな学びの成果を垣間見ることができました。



最後になります。鹿追高校の太田広光PTA会長、俵谷俊彦校長先生はじめ、鹿追高校の皆さんのホスピタリティあふれるおもてなしのおかげで充実した1日を過ごすことができました。厚く御礼申し上げます。



《文責：高P連十勝支部事務局長(帯広三条高校教頭)福田敏憲》